

修学について

学年・学期・休業日について

学年・学期

学年は4月1日から3月31日までをいい、前学期、後学期に分けられています。
また、1年間の授業を行う期間は、定期試験の期間を含め、35週にわたることが原則として定められています。

授業日・休業日

本年度の授業日・休業日は次のとおりです。

前学期授業日	令和4年4月1日から9月25日まで
後学期授業日	令和4年9月26日から令和5年3月31日まで
夏期休業日	8月8日から9月7日まで(第1・2学年) 8月8日から9月25日まで(第4・5学年)
冬期休業日	12月27日から1月9日まで
学年末休業日	3月3日から3月31日まで

なお、上記休業日中に集中講義・補講などを実施することがあります。

緊急の変更に関する連絡方法について

台風、地震、大雪その他の理由により緊急に臨時休業あるいは授業開始時刻・終了時刻を変更する場合は、本校のホームページおよびメール配信にて連絡します。

【ホームページ】

<https://www.ict-kanazawa.ac.jp/k.html>
(QRコード読み込みも可能です)



状況により、ホームページの更新ができない場合もありますので、承知おきください。

【メール配信】

入学時にメールアドレスをお知らせいただいております。変更が生じましたら速やかに事務局までご連絡ください。

授業について

授業時間

授業は各学級ごとに編成されている授業時間割に従い、1週間を区切りとして行われます。

第1・2学年

時限	時間帯
第1限	8：40～10：20
第2限	10：30～12：10
昼	食
第3限	13：00～14：40
第4限	14：50～16：30
ラーニングセッション	19：30～21：30

第4・5学年

時限	時間帯
第1限	8：40～10：20
第2限	10：35～12：15
昼	食
第3限	13：15～14：55
第4限	15：10～16：50

ラーニングセッション

ラーニングセッションの時間は、全員が必修とするアクティブラーニングの時間です。「Library and Work Commons」に集まり、ラーニング・メンターが当日の振り返り、翌日以降の学習準備のほか、寮生同士のチーム学習などを必要に応じてサポートします。確実な学習の定着、能力獲得に向け、有効に利用してください。

授業時間割の変更

授業時間割に変更があるときは、その都度伝達します。

欠席・欠課の届け

単位を修得するためには、授業に出席することが前提となります。やむを得ない事情がある場合でも、欠課が定められた授業時間数の5分の1を超えた場合は単位が与えられません。各授業開始時刻より後に入室する場合は遅刻、各授業終了時刻より前に退室する場合は早退とします。

出席扱い

下記に該当する欠席、欠課は出席扱いとなりますので、担任に申し出てください。

慶弔による出席扱い

兄弟・姉妹の結婚	1日
父母、兄弟・姉妹の法要	1日
父母の忌引	7日
祖父母、兄弟・姉妹の忌引	3日
祖々父母、伯叔父母、従兄弟・従姉妹の忌引	1日
その他の家族の忌引	1日

その他の理由による出席扱い

天災および交通機関の事故によるもの
 校長が認めた資格試験・就職試験の受験によるもの
 校長が認めた対外活動によるもの
 上記以外に校長が認めたもの

出席停止および出席停止期間の基準

本校では、学校保健安全法に基づき下記の感染症に罹患した場合は授業に出席できないことになっていきます（出席停止扱いとなり、欠席にはなりません）。医師の指示に従い療養され、医師より登校の許可が出てから、本校所定の「病欠証明書」（本校事務局にて配付）に医師が記入したもの、または医療機関発行の「診断書」を持参し、学級担任に提出してください。

分類	特徴	該当する感染症	出席停止期間
第1種	発生は稀だが重大な感染症	エボラ出血熱、クリミア、コンゴ熱、痘瘡、南米出血熱、ペスト、マールブルグ熱、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、鳥インフルエンザ（H5N1型）、新型コロナウイルス感染症、指定感染症、新感染症、新型インフルエンザなど感染症	治癒するまで。
第2種	飛沫感染し流行拡大の恐れがある感染症	インフルエンザ （鳥インフルエンザ（H5N1型）を除く）	発症した後（発熱の翌日を1日目として）5日を経過し、かつ、解熱した後2日を経過するまで。
		百日咳	特有の咳が消失するまで、または5日間の適切な抗菌薬療法が終了するまで。
		麻疹	発疹を伴う発熱が解熱した後3日を経過するまで。
		流行性耳下腺炎	耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫脹が発現した後5日間を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで。
		風疹	発疹が消失するまで。
		水痘	すべての発疹が痂皮化するまで。
		咽頭結膜熱	主要症状が消退したあと2日を経過するまで。
		結核	病状により学校医その他医師において感染の恐れがないと認めるまで（目安として、異なった日の喀痰塗末検査の結果が連続して3回陰性となるまで）。
第3種	飛沫感染が主体ではないが流行性拡大の恐れがある感染症	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、急性流行性角結膜炎	病状により学校医その他の医師において感染の恐れがないと認めるまで。
		その他の感染症 ノロウイルス・ロタウイルス感染症、マイコプラズマ感染症 他	校長が学校医の意見を聞き期間を決定する。本校では発症後5日を原則とするが、症状により延長する場合もある。

試験について

授業科目の履修状況を評価し、単位を認定するための資料として試験が行われます。試験の種類には定期試験（学期末試験）、再試験、追試験、単位追認試験、その他の試験があります。

正当な理由なく試験を欠席した場合、または懲戒処分のため試験を欠席した場合、当該科目の試験の成績を0点とします。

なお、試験中不正行為をした者は、当該試験期間に行われるすべての科目の試験の成績が0点となります。不正行為により試験の成績を0点とした場合は、追試験、再試験の対象にはなりません。

定期試験

定期試験は、各学期末に行われます。

令和4年度の定期試験日程は、次のとおりです。

前学期定期試験 8月2日から8月4日まで(第1・2学年)
8月3日から8月4日まで(第4・5学年)

後学期定期試験 1月31日から2月2日まで(第1・2学年)
1月31日から2月1日まで(第4・5学年)

再試験

再試験は、定期試験を実施した科目の評点が不合格であった者について実施することがあります。

追試験

追試験は、法定伝染病の罹患や部活動による対外試合など、やむを得ない事由によって定期試験を受けることのできなかつた者に対して実施することがあります。

単位追認試験

単位追認試験は、進級が認められた者で、当該学年までに取得しているべき単位を取得できなかった科目について実施することがあります。

その他の試験

その他の試験は、中間テストや小テスト、成績不振者を対象とした補習テストなど、科目担当者が必要と認めた場合に実施することがあります。

成績について

単位

教育課程表には、各授業科目の授業時間数に対応する量を「単位」として表示してあります。原則として、50分の授業を30回行うと1単位として計算します。この様な方法で計算される単位を「履修単位」と呼びます。なお、一部の科目については50分の学習45回で1単位と計算します。その45回のうち30回分の学習は予習・復習など授業時間外で行い、授業は15回行うことを標準とします。このような方法で計算された単位を「学修単位」とよび、一般に大学で用いられています。

単位認定と成績評価

各授業科目の成績評価は、試験の成績、平素の学習状況、出席状況を勘案して、学習支援計画書（シラバス）の評価基準に従って行います。

各科目の成績はそれぞれの科目担当教員が評価します。授業時間数の5分の4以上出席している者について、その科目の履修を終了したものと認め、100点を満点とする評点により評価し、第1・2・4・5学年は評点が60点以上の科目について、第3学年は50点以上の科目について、その科目の単位を修得したものと認定します。この評点は下表の区分により評定され、指導要録および成績証明書などに記載されます。

再試験又は単位追認により単位を修得した場合の当該科目の評点は第1・2・4・5学年は60点、第3学年は50点とします。

学業成績の評価

第1・2・4・5学年

評点	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0	0
評定	S (秀)	A (優)	B (良)	C (可)	D (成績不可)	F (出席不良)
評価	4	3	2	1	0	0

第3学年

評点	100～90	89～80	79～65	64～50	49～0	0
評定	S (秀)	A (優)	B (良)	C (可)	D (成績不可)	F (出席不良)
評価	4	3	2	1	0	0

GPA について

GPA (Grade Point Average) とは、個々の科目の成績評価に基づき、全履修科目における1単位当たりの成績評価の平均値を表すものです。これにより、全体的な成績評価として各学期終了時点での成績状況を確認できます。

個々の科目の成績評価が高ければ当然 GPA も高くなりますが、全履修科目を対象としていますので、履修許可を受けた科目は、確実に履修し単位修得に努める必要があります。

また、GPA による成績評価は、今後の修学指導における基礎資料となるばかりでなく、就職指導や大学への進学指導（大学への編入学推薦出願資格）における基礎資料ともなりますので、日々の学習に努力してください。

成績評価と GPA の算出方法

評定	評価ポイント
S (秀)	4 ポイント
A (優)	3 ポイント
B (良)	2 ポイント
C (可)	1 ポイント
D (成績不良)	0 ポイント
F (出席不良)	0 ポイント

$$\text{GPA} = \frac{(\text{評価ポイント} \times \text{単位数}) \text{の総和}}{\text{履修科目の総単位数}}$$

(注) GPA は、計算結果の小数点以下3桁目を四捨五入し、小数点以下2桁までとします。

成績通知

成績通知表は学期ごとに保護者あてに郵送します。

また、成績などで懇談の必要のある場合は、保護者にご連絡することがあります。

ポートフォリオについて

The screenshot shows the manaba interface for 'リーディング・ライティング I A'. It displays a list of quizzes with columns for No., Title, Prerequisite, Status, Period, Public/Private, Submission, and Management. All quizzes are marked as '受付終了' (Closed).

No.	タイトル	前提条件	状態	期間	公開/非公開	提出	管理
1	自動採点 <HW: 速読> W3: Lesson 5 / 6	-	受付終了	2018-04-20 12:00~ 2018-04-26 12:00	公開中	10名	管理
2	自動採点 <HW: 速読> W4: Lesson 7 / 8	-	受付終了	2018-04-27 12:00~ 2018-05-03 12:00	公開中	6名	管理
3	自動採点 <HW: 速読> W5: Lesson 9 / 10	-	受付終了	2018-05-11 12:00~ 2018-05-17 12:00	公開中	10名	管理
4	自動採点 <HW: 速読> W1: Lesson 1 / 2	-	受付終了	2018-04-13 10:00~ 2018-04-19 12:00	公開中	11名	管理
5	自動採点 <HW: 速読> W2: Lesson 3 / 4	-	受付終了	2018-04-13 12:00~ 2018-04-19 12:00	公開中	11名	管理
6	自動採点 <HW: 速読> W6: Lesson 11 / 12	-	受付終了	2018-05-18 12:00~ 2018-05-24 12:00	公開中	10名	管理
7	自動採点 <HW: 速読> W7: Lesson 13 / 14	-	受付終了	2018-05-25 12:00~ 2018-06-01 12:00	公開中	11名	管理
8	自動採点 <HW: 速読> W8: Lesson 15 / 16	-	受付終了	2018-06-06 12:00~ 2018-06-14 12:00	公開中	10名	管理
9	自動採点 <HW: 速読> W9: Lesson 17 / 18	-	受付終了	2018-06-15 12:00~ 2018-06-21 12:00	公開中	10名	管理

学習支援システム manaba について

第1～3学年の学生は日々の学習や自己分析に、クラウド型学習支援システム manaba を活用しています。manaba は国内の高等教育機関で導入されているシステムです。学生は科目ごとに設定されているレポート提出や小テストを manaba で教員へ提出しています。また、自己分析などのキャリア形成にも活用され、ポートフォリオとして本校での歩みを記録しています。スマートフォンからもアクセス可能なので、学生はいつでもどこでも日々の学習状況や自己成長を見直すことができます。

URL : <https://manaba.ict-kanazawa.ac.jp/ct/login>

学修支援システム e シラバスについて

金沢工業大学との共創活動を行っていく第4・5学年の学生は、金沢工業大学で運用されている学修支援システム e シラバスを利用することになります。これは学習支援計画書（シラバス）を電子化したもので、学生のアクティブラーニングの実施を容易にし、科目間や教員と学生をつなぐ双方向的な役割を担うことをめざしたものです。e シラバスには、以下のような機能が実装されています。

- ・授業資料、動画、音声等のデジタルデータの配信、外部サイトへのハイパーリンク付与
- ・レポート課題の提示とレポートの受理
- ・小テスト、アンケートの実施

こうした機能を利用し、予習・復習を目的とした授業資料や動画の配信、学生からのレポート提出受付などに活用されています。全教員、全学生が利用することができるシステムで、manaba と同様ポートフォリオとしての役割も担っています。学内のネットワーク（VPN を利用したアクセスを含む）からアクセスすることができます。

URL : <https://navi.mars.kanazawa-it.ac.jp/portal/ICTStudent>

課題学修の単位認定について

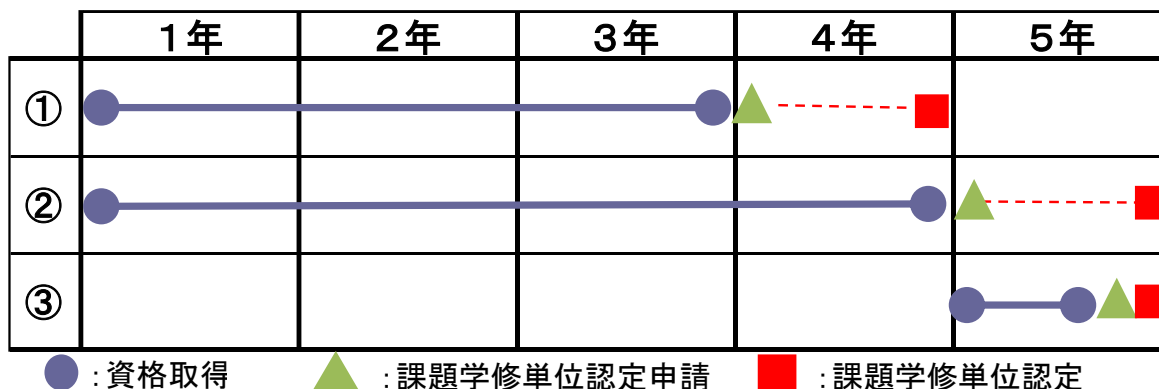
教育課程表に示される課題学修の単位は、通常の授業以外の資格試験取得や別に指定されたコンテスト、地域連携活動などのプロジェクト活動によって認定される専門の選択科目単位です。所定の申請書に必要事項を記入して申請し、承認を受けると申請年度の単位として認定されます。

認定単位数

各資格取得に対する認定単位数は別表1「課題学修による単位の認定数－資格試験関係－」（以下「別表1」という。）に示されています。指定されたコンテストでの成果に対する認定単位数は別表2「課題学修による単位の認定数－コンテスト関係－」（以下「別表2」という。）に示されています。また、別表3「課題学修による単位の認定数－プロジェクト活動関係－」（以下「別表3」という。）にあるような、地域連携やボランティア活動などの課外プロジェクト活動は、審議を経て単位認定及び単位数が決定されます。

課題学修の単位認定には次の規則があります。

- 専門の選択科目であるため、第4・5学年の単位修得とする。
- 第4・5学年の各学年で認定する単位数は資格試験・コンテスト・プロジェクト活動を併せて3単位までとする。
- 課題学修の単位は、卒業又は進級に必須となる累積単位数に含めない。
- 本校入学から第3学年3月末までに課題学修の条件を満たし、第4学年4月に単位認定申請がされた資格は、審査を経て問題がなければ第4学年の課題学修単位として認める。（下図①）
- 本校入学から第4学年3月末までに課題学修の条件を満たし、第5学年4月に単位認定申請がされた資格は、審査を経て問題がなければ第5学年の課題学修単位として認める。（下図②）ただし、第4学年4月に単位認定申請がされた資格については除く。
- 第5学年4月以降11月末までに課題学修の条件を満たし、同年度12月の所定の期日までに単位認定申請がされた資格は、審査を経て問題がなければ第5学年の課題学修単位として認める。（下図③）



(資格試験関係の規則)

- 同一学年において級が異なる同種の試験に合格した場合は、上級の資格のみ対象とする。
- 第4学年に単位が認められた資格試験の上級の試験に第5学年に合格した場合は、差分の単位数のみ認定する。

(コンテスト関係の規則)

- 原則、正選手（出場選手）を対象とする。ただし、出場チームに正式に所属し、出場選手枠のために出場できなかったがチームへの貢献が大きい者に関しては、指導教員の推薦があり、審議で承認された場合は出場選手と同等に扱う。
- 申請時には、大会及び活動の概要、出場メンバー、成果などが分かる資料を添付すること。

(プロジェクト活動関係の規則)

- 申請時には、活動の概要、参加者の役割分担、取り組み時間、成果などが分かる資料を添付すること。

単位認定の手続き

課題学修による単位認定を希望する場合は、当該年度の申請期日までに次の手続きを完了してください。

- ①クラス担任から「課題学修単位認定申請書」をもらい、所定事項を記入してください。
- ②申請書に当該資格試験の合格通知書・免状などの原本とコピー（コンテスト・プロジェクト活動の場合は関係資料）を添えて、クラス担任の確認を受け、確認印をもらってください。（原本は返却してもらって下さい。）
- ③クラス担任は申請書と添付書類を教務主事へ提出して下さい。

別表1 課題学修による単位の認定数 —資格試験関係— (令和4年度)

資格名	認定単位数	備考
実用英語技能検定 (英検)	準1級	1
	1級	2
IELTS	6.0~6.5	1
	7.0以上	2
技術英語能力検定	準プロフェッショナル	1
	プロフェッショナル	2
TOEIC® Listening & Reading Test	700~899	1
	900以上	2
TOEFL iBT	80~99	1
	100以上	2
日本語能力試験	N2	1
	N1	2
実用数学技能検定	準1級	1
	1級	2
実用理科技能検定	理検 STEP (物理検定1級)	1
	理検 STEP (化学検定1級)	1
	理検 STEP (生物検定1級)	1
CAD利用技術者試験	2次元CAD利用技術者試験基礎	1
	2次元CAD利用技術者試験2級	2
	2次元CAD利用技術者試験1級(機械)	3
	3次元CAD利用技術者2級	2
	3次元CAD利用技術者準1級	3
	3次元CAD利用技術者1級	3
機械設計技術者	3級	2
ドットコムマスターアドバンス	シングルスター	1
	ダブルスター	2
CGクリエイター検定	エキスパート	2
CGエンジニア検定	エキスパート	2
マルチメディア検定	エキスパート	2
情報処理技術者	ITパスポート	1
	基本情報技術者	2
	その他情報処理技術者試験	2
デジタル技術検定	2級情報	1
	2級制御	1
	1級情報	2
	1級制御	2
電気通信設備工事担任者	A I 2種	1
	第1級アナログ通信	2
	DD 2種	1
	第1級デジタル通信	2
	総合通信	3
電気工事士	2種	1
	1種	2

資格名	認定単位数	備考
電気通信主任技術者	伝送交換主任	2
	線路主任	2
陸上無線技術士	2級	2
	1級	3
電気主任技術者	3種	2
	2種	3
危険物取扱者	乙種 (6類全て)	1
	甲種	1

別表2 課題学修による単位の認定数 -コンテスト関係- (令和4年度)

コンテスト名		認定単位数	
アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト	全国大会出場	2	
	全国大会入賞	3	
全国高等専門学校プログラミングコンテスト	競技部門	準々決勝進出	2
		入賞	3
		その他特例※	1
	競技部門以外	本選に出場	1
		何らかの賞を受賞 (敢闘賞を除く)	2
		最優秀・優秀賞	3
全国高等専門学校デザインコンペティション	プレデザコン (3部門)	何らかの賞を受賞	1
		予選のある部門での本戦出場	1
	デザコン (4部門)	何らかの賞を受賞	2
		最優秀・優秀賞	3
全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト	シングル部門	全国大会出場	1
		全国大会入賞	2
	チーム部門	全国大会出場	1
		全国大会入賞	2
その他のコンテスト	顧問、指導教員から推薦があった場合、国際理工学科、教務委員会および学務会議で審議し決定する		

※ なお、全国大会に出場し、指導教員により準々決勝進出相当の努力が認められ推薦があった場合には、審議で単位認定を承認する場合がある。

別表3 課題学修による単位の認定数 -プロジェクト活動関係- (令和4年度)

プロジェクト活動	認定単位数
地域連携活動、ボランティア活動などの課外プロジェクト活動	教員から推薦があった場合、国際理工学科、教務委員会および学務会議で審議し決定する

進級・卒業について

進級の要件

次の条件を満たしている者については、第1学年から第4学年までは、その学年の課程を修了したものと認定し、次学年に進級できます。

- (1) 学則に定める学年の修得最低単位数を修得していること。
(修得最低単位については教育課程表、単位認定については成績について (p. 47) を参照)
- (2) 当該学年における欠席日数が出席すべき日数の5分の1未満であること。

進級の特例

進級の要件の第1号のみを満たすことのできなかった者のうち、第1学年から第3学年までは、次の第1号及び第2号、第4学年にあつては、次の各号すべての要件を満たす者に限り、当該学年の修了したものと認定し、次学年に進級できます。

- (1) 別表第1に掲げる当該学年修了に必須となる授業科目の単位が認定されていること。
- (2) 修得単位数が、別表第2に掲げる進級に必須となる累積単位数を満たしていること。
- (3) 第1学年から第3学年までの必修科目の単位をすべて取得していること。

別表第1 当該学年修了に必須となる授業科目

学科	科目	
	第1学年	第2学年
国際理工学科	エンジニアリング デザインⅠA及び ⅠB	エンジニアリン グデザインⅡA 及びⅡB

別表第2の1 進級又は卒業に必須となる累積単位数（平成30年度から令和元年度入学制適用）

学科 \ 学年	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年
国際理工学科	26 (38)	72 (76)	96 (104)	135 (143*)	167 (167)

注1) 下段（ ）は修得最低単位合計

注2) 累積単位数には「海外英語研修」及び「課題学修」の単位数を含めない。

※ 標準となる修得単位数を表示

別表第2の2 進級又は卒業に必須となる累積単位数（令和2年度以降入学制適用）

学科 \ 学年	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年
国際理工学科	26 (38)	74 (76)	96 (104)	135 (143*)	167 (167)

注1) 下段（ ）は修得最低単位数合計

注2) 累積単位数には「海外英語研修」及び「課題学修」の単位数を含めない。

注3) 第2学年にあつては、第1・2学年の卒業の要件となる授業科目76単位の内、第2学年の必修科目2単位分を除く74単位が認定されていること。

※ 標準となる修得単位数を表示

同一学年再履修の制限

同一学年の再履修は、1回を超えてはなりません。

卒業の要件

次の条件を満たしている者については、本校の課程を修了し卒業を認定します。

- (1) 学則に定める修得最低単位数を修得していること。
(修得最低単位数については教育課程表、単位認定については成績について (p.47) を参照)
- (2) 卒業までに特別活動に90時間以上参加していること。
- (3) 該当学年における欠席日数が、出席すべき日数の5分の1未満であること。

本校の教育理念と教育目的に沿って設定された授業科目や教育プログラムを履修し、基準となる単位数を取得し、卒業を認められた者には、卒業証書を授与し、準学士（工学）の称号が付与されます。

留学・海外研修について

ラーニングエクスプレス(3週間)

国際高等専門学校では、Global Learning Experiences in Engineering (GLEE) として、体験重視型の工学教育のグローバル展開を図り、国際的に活躍できる、実践的なエンジニアの育成をめざしています。GLEEの一貫である「ラーニングエクスプレス」は、国際高等専門学校の提携校であるシンガポール理工学院と共同で実施されるプロジェクトです。グローバル人材を育成する試みとして、異なる国の学生達が、発展途上国や地域を訪問し、フィールドワークを通して、地域発展、環境問題、持続可能な社会などの観点からの問題発見、問題解決策を提案し実施するという、国際的ソーシャルイノベーションプロジェクトです。日本、シンガポールをはじめとするアジアの国の学生と一緒に村々を訪問し「デザインシンキング」の手法を用い、村人達へのインタビューや観察を通して必要なものを見出し、発案、プロトタイプ製作を行い、村人たちと新たな可能性を共有します。